

## 衛生法規に関する知識

問題1 次のクリーニング業法の目的に関する組合せのうち、正しいものはどれか。

「この法律は、クリーニング業に対して、公衆衛生等の見地から必要な（①）を行い、もつてその経営を（②）に適合させるとともに、（③）を図ることを目的とする」

- (1) ①規制及び啓発 ②公共の福祉 ③国民の衛生水準の確保
- (2) ①規制及び啓発 ②利用者の利益 ③国民の衛生水準の確保
- (3) ①指導及び取締り ②公共の福祉 ③利用者の利益の擁護

問題2 次の組合せのうち、業として行う場合にクリーニング業法に規定する「営業者」に含まれる者として、正しいものはどれか。

- A 洗たく機や乾燥機を設置して、洗たくのためにこれを利用者に使用させる者
  - B 衣類は対象とせず、おしごりやモップのみを洗たくする者
  - C 洗たく物を解体して洗たくを行う者
- (1) Aー含まれない Bー含まれる Cー含まれない
  - (2) Aー含まれる Bー含まれる Cー含まれない
  - (3) Aー含まれない Bー含まれない Cー含まれる

問題3 次の営業者の衛生措置等に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 消毒されていないおむつやパンツは、洗たくの前に消毒しなければならないが、洗たくが消毒の効果を有する方法で行われる場合は、消毒しなくてもよい。
- (2) 洗たくをするクリーニング所には、脱水機の効用を有する洗たく機を備える場合でも、脱水機を個別に備える必要がある。
- (3) 適法に届出を行った営業者であれば、クリーニング所以外においても営業として洗たく物の処理を行わせることができる。

問題4 次の利用者に対する説明義務のうち、正しいものはどれか。

- (1) 営業者は、洗たく物の受取及び引渡しをするに際しては、利用者に対し、苦情の申出先を必ず明示しなければならない。
- (2) 営業者は、洗たく物の受取及び引渡しをしようとするときは、あらかじめ、利用者に対し、洗たく物の処理方法等について必ず説明しなければならない。
- (3) 無店舗取次店においては、苦情の申出先となるクリーニング所又は無店舗取次店の名称、クリーニング所の所在地又は車両の保管場所並びに電話番号を書面で配布するよう努めなければならない。

問題5 次のクリーニング師の設置に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 営業者は、指定洗たく物とそれ以外の洗たく物の処理を行うクリーニング所を分けて設ける場合には、それぞれにクリーニング師を設置しなければならない。
- (2) 営業者がクリーニング師であれば、自らがクリーニング所においてその業務に従事しない場合であっても、当該クリーニング所にクリーニング師を設置する必要はない。
- (3) クリーニング所においては、洗たく物の受取及び引渡しのみを行う施設であってもクリーニング師を設置しなければならない。

問題6 次のクリーニング所に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) クリーニング所の届出事項を変更、又は営業を廃止しようとする者は、あらかじめ都道府県知事に届け出なければならない。
- (2) クリーニング所を開設しないで洗たく物の受取及び引渡しをすることを営業としようとする者は、あらかじめ都道府県知事に届け出なければならない。
- (3) クリーニング所を開設しようとする者は、クリーニング師でなければならない。

問題7 次のクリーニング師の免許に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) クリーニング師の免許を受けようとする者は、クリーニング師として従事する地の都道府県知事に申請しなければならない。
- (2) クリーニング師が、免許証を破り、汚し、又は失ったときは、1月以内に、免許を与えた都道府県知事に再交付の申請をしなければならない。
- (3) 都道府県知事は、犯罪の内容を問わず、クリーニング師が罰金以上の刑に処せられたときは、その免許を取り消すことができる。

問題8 次のクリーニング師の研修及び業務従事者に対する講習に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 営業者は、無店舗取次店であってもその従事者にクリーニング業法に規定する業務従事者に対する講習を受けさせる義務がある。
- (2) 営業者は、その業務従事者がクリーニング業法に規定するクリーニング師の研修を受講したクリーニング師であれば、法に規定する業務従事者に対する講習を受けさせる義務はない。
- (3) クリーニング師は、免許の交付を受けた後1年以内に、クリーニング業法に規定するクリーニング師の研修を受けなければならない。

問題9 次の衛生法規に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 建築基準法では、工業系用途地域であっても、引火性溶剤を用いるドライクリーニング工場の立地を制限される。
- (2) 職場における熱中症対策は、労働安全衛生規則の規定に基づき、事業者に義務付けられている。
- (3) 産業廃棄物が適正に処理されたか確認するため、排出業者は産業廃棄物管理票により確認しなければならない。

問題10 次の「生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 生活衛生同業組合は、当該業種における過度の競争により、組合員が適正な衛生措置を講ずることが阻害される場合には、料金又は販売価格の制限を行うことができる。
- (2) 生活衛生同業組合は、任意加入団体であるため、国や地方公共団体による組合への助成や援助については規定されていない。
- (3) 「Sマーク」の標識は、クリーニング業等の生活衛生関係営業者が提供する役務の内容又は商品の品質、設備等の表示の適正化に関する事項に適合する等、厚生労働省令で定めるところにより、登録を受けた者のみが掲示できる。

## 公衆衛生に関する知識

問題1 地域保健法第6条に規定する保健所が行う事業として、正しいものはどれか。

- (1) 確定拠出年金及び確定給付企業年金に係る承認
- (2) 労働時間、賃金、解雇等の労働条件に関する事項
- (3) 地域保健に関する思想の普及及び向上に関する事項

問題2 次の生活習慣病に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 生活習慣病は、食習慣、運動習慣、休養、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群のことを指す。
- (2) 生活習慣が深く関与している主な疾病として、心臓病（心疾患）及び脳卒中（脳血管疾患）がある。
- (3) 生活習慣病への対策では、三次予防対策である早期発見、早期治療の推進が重要である。

問題3 次の洗たく物の微生物汚染に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 腸管出血性大腸菌が形成する芽胞は、熱やアルコールに抵抗性があるため、規定に基づいた消毒をする必要がある。
- (2) ノロウイルスで汚染された洗たく物をあらかじめすすぐ場合は、マスク等を付け、感染防止に十分気を付けて作業する必要がある。
- (3) ブドウ球菌は乾燥表面で約1か月程度は生存可能であるが、多くの微生物は湿潤環境を好みため、洗たく物は乾燥状態で保管すべきである。

問題4 次の感染症に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 感染成立の3要素として、感染源、感染経路、感受性のある個体（宿主）があり、この3要素のうち1つでも欠けると感染症は発生しない。
- (2) 従業員の家族がインフルエンザを発症した場合、その従業員に症状がない場合でも法令の定めにより、必ず休まなければならない。
- (3) 感染症対策として、洗たく前の委託物（洗たく物）に触れる場合は、マスクとエプロンの着用と接触後の手洗いもしくは手指消毒が重要である。

問題5 厚生労働省が定める「クリーニング所における衛生管理要領」における洗たく物の管理及び処理に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) ランドリー処理の本洗には、60℃以上の温水を使用することが望ましい。
- (2) ランドリー処理のすすぎには、清浄な水を使用して少なくとも3回以上行うこと。
- (3) ランドリー処理による洗たく物の乾燥を自然乾燥により行う場合は、脱水機のそばで行うこと。

問題6 厚生労働省が定める「クリーニング所における衛生管理要領」における引火性溶剤の取扱いに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) できるだけ引火点が低い溶剤を選択すること。
- (2) 静電気を抑えるため、洗たくの頻度及び洗剤の濃度測定に応じ、洗剤を投入すること。
- (3) 洗たく物を乾燥機に移し替える際は、静電気の発生を抑えるため、布製の容器を利用し、素早く移し替えること。

問題7 次の洗たく物のうち、指定洗たく物に該当するものとして、誤っているものはどれか。

- (1) 病院又は診療所において療養のために使用された寝具
- (2) 手ぬぐい、タオル
- (3) ホテルにおいて宿泊者が使用した浴衣

問題8 次のクリーニング所における水質汚濁防止に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) クリーニング所は、洗たく業の用に供する洗浄施設が特定施設に該当するため、特定施設として国への届出、排水基準の遵守、測定と記録、事故時における届出などの義務がある。
- (2) 水質汚濁防止法では、有害物質であるテトラクロロエチレンの地下浸透を禁止している。
- (3) ドライクリーニング機械から排出する排液中のテトラクロロエチレンの管理濃度は、水質汚濁防止法及び下水道法に基づく排水基準で0.1 mg/L以下とされている。

問題9 次の化学物質の排出に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) P R T R 制度は、テトラクロロエチレンなど化学物質の環境への排出量と事業所外への移動量を事業所ごとに把握して、都道府県を経由して国に届け出る仕組みである。
- (2) 代替フロンには温室効果はないが、オゾン層破壊効果が高いため、地球温暖化にも影響を与える。
- (3) ドライクリーニングに使用する石油系溶剤やテトラクロロエチレンは、VOC (揮発性有機化合物) に該当し、光化学オキシダントや微小粒子状物質 (PM 2.5) の原因物質である。

問題 10 次のドライクリーニング溶剤の規制に関する組合せのうち、正しいものはどれか。

大気汚染防止法では、テトラクロロエチレンによるドライクリーニング機(密閉式のものを除く)については、処理能力が1回当たり A 以上の施設に B が設定されており、営業者は排出又は飛散を抑制するための措置をとる必要がある。

- | A         | B        |
|-----------|----------|
| (1) 30 kg | 指定物質抑制基準 |
| (2) 60 kg | 特別排出基準   |
| (3) 90 kg | 指定物質抑制基準 |

## 洗たく物の処理に関する知識

問題1 しみに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 市販の水溶性しみ抜き剤には、アルカリ性のものと酸性のものがあり、タンパク系のしみには、酸性のしみ抜き剤を使用する。
- (2) 油性のしみの周囲の輪郭は、はっきりしているものが多い。
- (3) 不溶性のしみには、潤滑作用のある固形石けん、グリセリン等を使用する。

問題2 ランドリーに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 1回目のすすぎ温度は、洗たく温度より10°C以上下げる、2回目以降は常温でよい。
- (2) 漂白剤は、黄ばみ、しみ、汚れを分解して漂白するが、衣類の殺菌効果はない。
- (3) 糊付けに使用する糊剤には、でんぶん糊、CMC、PVA等がある。

問題3 界面活性剤に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 両性界面活性剤は、アルカリ性ではカチオン界面活性剤として、酸性ではアニオン界面活性剤として働く。
- (2) 界面活性剤の分子は、水になじみやすい部分（親水基）と油になじみやすい部分（親油基）で構成されている。
- (3) 非イオン界面活性剤の水溶液の温度を上げていくと液が濁り始めるが、このときの温度を暁点といい、暁点以上の温度では界面活性剤の性能が低下する。

問題4 過炭酸ナトリウムに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 生地を傷めることが少ないため、ほとんどの染色物に使用することができ、特に、含金染料染色物に効果的である。
- (2) 標準使用量は、1Lあたり0.5~1gで、時間は長いほど漂白効果が出る。
- (3) 低温で漂白効果を発揮する。

問題5 ドライクリーニング溶剤に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) テトラクロロエチレンは、油脂溶解力が大きく、揮発しやすいので、短時間で洗浄、乾燥ができ、生産性が高い。
- (2) ドライクリーニング溶剤の比重が大きいほど、たたき洗い効果が小さく、衣料を傷めない。
- (3) 石油系溶剤は、不燃性である。

問題6 毛皮のクリーニングに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 仕上げには、人体プレス機を使用し、60～70℃で蒸気量を少なめにして短時間処理をする。
- (2) 保管条件は、温度10～15℃、湿度45～50%が最適である。
- (3) 脱脂されるので、ドライクリーニングは避ける。

問題7 繊維素材に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) ポリウレタンは、大きな伸縮性のある弾性繊維で、ストレッチ素材として様々な衣料に用いられている。
- (2) 麻は、綿よりも染料の吸収が悪いため、濃色に染まりにくく、染まっても脱色しやすい。
- (3) ナイロンは、熱に強く、日光により黄変しにくい。

問題8 繊維加工に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) SG（ソイルガード）加工は、繊維を汚れにくくする加工のことで、SR（ソイルリリース）加工は、付着した汚れを洗たくやドライクリーニングで落ちやすくする加工のことである。
- (2) 布に折り目やヒダをつける加工をエンボス加工といい、スカート、パンツ、ブラウスなどに多用される。
- (3) 水蒸気は通すが、水滴は通さない加工を吸湿吸汗加工といい、ポリウレタンの親水性透湿膜をコーティングする方法と多孔性のフィルムをラミネートする方法がある。

問題 9 染料に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) ナフトール染料は、美しい赤系統の色合いが多く、染色堅ろう度も良好であるが、摩擦やドライクリーニング溶剤に不堅ろうのものもある。
- (2) 塩基性染料は、染色堅ろう度は低いが、絹や皮革は美しく染まるので、用いられることがある。
- (3) 直接染料は、色止め、後処理をしなくても、洗たく染色堅ろう度が高い。

問題 10 繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法 (JIS L 0001 : 2024) とその意味に関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

	表示記号	表示記号の意味
(1)		液温は、30°Cを限度とし、手洗いができる。
(2)		平干し乾燥がよい。
(3)		酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない。